

わがまち発見！地域に発信！

～新聞づくりを通じて「できた」喜びを～

幕別町立糠内小学校

教諭 池田 圭子

1:はじめに

糠内小学校は全校児童16名。3学級の複式。

16名の子ども達は、全校で助け合い、学びあっている。

糠内地域は農村地帯で、児童の家庭も畑作・酪農が多い。保護者も地域も学校に協力的である。

16人の子ども達。いつも16人で生活している学校生活。高学年が低学年に様々なことを教え、低学年は高学年を見習っている。過ごしやすく穏やかな学校生活。

一見とても落ち着いていて素敵なのだが、刺激が少ない。他からの風が入ってこないのである。何か新しい風を入れることはできないか？

どのクラスも1クラスは10人に満たない。少ない人数でもできることではなく、少ない人数だからできること。少ない良さを最大限に生かしていこうと日々考えている。

2:子ども達と新聞の出会いを大切に

(1)新聞作りのきっかけづくり～ちょっとしたきっかけを大切に～

新聞を読む子も読まない子も新聞の存在は知っている。1年生でも新聞の存在はよく知っている。読めなくても子どもは新聞に日頃から親しんでいたりする。例えば図工や生活科では準備するものの中に「新聞紙」がよくあるものだ。だから、少なからず「新聞」の認識はある。

そこで、低学年なら教師が子どもの持ってきた新聞を見て「こんなことが書いてある」と言ってみたりすると、自分の新聞にはどんなことが載っているのか気になったりするのである。興味を引くのだ。とてもさりげなく誘うのである。いざ、新聞を作るということになったら、「あのときに見たの覚えてる？」と振り返ってみる。さりげなく誘いながら次のステップに進むのである。中高学年なら、朝の会などのお話で新聞に書いてある話題を提供する。何度かくり返していると「私もその記事見たよ」という子が出てくる。このチャンスを生かす。まずは新聞に親しみを感じさせる。

さらに、書くためのきっかけづくりとして、同じ学年の子が作ったステキな作品を紹介する。自分たちもできそう。やってみよう。と意欲をかきたてるために、ステキな作品を紹介しながら「〇〇さんのこの間書いていた絵をここに使ったらもっとステキになるだろうね」「△△さんの字でこれと同じ新聞作ったら読みやすいだろうね」などと具体的に子どもの良いところを言いながら紹介していくと「もしかしたら、自分もできるかも」「やってみたいなあ」と感じるようだ。やる気にさせてしまうのだ。

そして、紹介するものは形式がしっかりしていて、内容の濃いもの。記事の内容がわかりやすく簡潔な文章のもの。見た目のきれいななどを準備する。質の高いものをはじめから提示すると、それを参考にしたり、その作品を目指すのでよりよいものができると考える。

(2)新聞づくりの意義や目的を知る。

- ①なぜ作る？
- ②誰によんでもらう？
- ③どんな新聞にする？

(3)作ってみる

新聞作りのルールや基本を学んで（題字・見出し・記事・イラスト・写真）

①最初は簡単にできる「はがき新聞」づくり（形式は指定する）

- *みんなに知らせることを目的として（自己紹介新聞・学級の出来事など）
- *学級や保護者へ発行
- *はがき新聞はちょっとしたまとめとしても利用する。そして発信！

②学習新聞

③壁新聞

- *はじめは真似から、良いところはどんどん取り入れよう！
- *グループで作成する新聞は、些細なことでもメンバーと相談して決定することを基本とする。

(4)もっとやってみたい気持ちをかきたてる

- ほめる・・・具体的に。ちょっとしたことをほめる。
- 感謝する・・・ありがとう。制作者に、協力者に、取材先のひとへ
- 喜ぶ・・・できあがったことに。何かを発見した、知った。

3:新聞作りをスムーズにするために

急に「書く」と言われても書けない。逆に書くこと嫌いになってしまう。日常的に書く・話す・聞くの活動を意識的に取り入れる。毎日コツコツ行う。少しずつ。最初はいまかなくてもだんだん上手くできるようになることを実感させる。

合い言葉は「この感動を忘れないように！」

- 低学年・・・写真を使用して、コメントの練習。
- 中学年・・・その日一日のことを振り返ってメモする。
- 高学年・・・新聞スクラップ（一つの記事をみんなで読みあって、意見感想交流）

4:みんなで協力して「できた」喜びを～わがまち新聞の取り組み～

(1)みんなでしよう～低学年～

2006年度 「しし新聞」 北海道「優秀賞」 全国「佳作」

1年生1名・2年生5名の全員で6名。大規模校であれば1つのグループ。
2学期から、東京の野手美和子先生とはがき新聞を通じて交流をした。はがき新聞をたくさん発行。返事をもらうことによって、新聞を作ることが励みになり、もっと作りたい

いと意欲が湧いていた。

みんなで何か一つの作品ができたなら、もっと「できた」喜びを共有できるのではないかと考えた。

しし新聞・・・地域の伝統芸能である「糠内獅子舞」について知りたいことを出し合
って、保存会の人に取材。獅子をさわったり横笛を吹いたり実際やっ
てみたことを書く。獅子のことを糠内100年史で調べる。

生活科「自分の身近なものを知ろう」

- ①もっと知りたいことを出し合う
- ②テーマの決定・・・みんなで調べたり、聞いたり、体験したりするなら何をしたいか相談。
- ③教師の提案・・・みんなで壁新聞をつくってみよう。
- ④どんなことを知りたいか *テーマの中で自分たちの知りたいことを話し合う
6人なのでテーマを6つにした。
- ⑤知るためにはどうしたらいいか *取材の仕方の学習。
- ⑥取材しよう・・・地域の人をお願いして取材。
- ⑦記事を書こう・・・
I：メモを下書きする（文字数は教師が教える）
II：みんなに読んで発表する（伝わるか確認）
III：推敲（低学年なので、教師と一緒に）
IV：新聞用紙と同じ様式のものに清書
- ⑧壁新聞の係分担をする・・・下書きの係・ペンで書く係・色塗り係・イラスト係
写真係など
- ⑨壁新聞を書く・・・下書きの係が下書きをはじめると、イラストや写真の係が記事
の内容にあったイラストや写真を考える。候補を決めたらみんな
で相談。色を塗るときも色の係が候補を選んでみんなで相談。
みんなの壁新聞ということを強調したかったので、何でも相談
させた。司会の経験もさせたかったので、しきり役はその日の
日直が行った。
- ⑩発表・・・参観日にお家の人に発表。わがまち新聞コンクールで賞をいただき、新
聞で取り上げていただいたので、様々な形で発信することができた。

低学年で壁新聞。取材を通じて、地域の人と交流することができた。子ども達は何かをするときみんなで相談すると楽しくなるんだ
ということを学んだ。思いもかけずわがまち新聞コンクールで全国で
「佳作」をいただき驚いた。このことをきっかけとして、また書こう
という意欲がでてきた。（もう一つ染め物新聞を作った）学級で話し
合うことも多くなった。一番の収穫は、新聞を通じて、地域の人に子
ども達の活動を知ってもらうことができたことだ。さらに地域の方々
が子ども達に「すごいね」「がんばったね」と声をかけてくれることによって、子ども達
に自信がついた。匿名の方からプレゼントももらって、知らない人が応援してくれている
ことを知って子ども達に勇気も湧いた。



(2)新聞作りでなかまとの絆を深める～高学年～

2007年度 「山のいも」新聞 北海道「優秀賞」 全国「佳作」

低学年が「わがまち新聞コンクール」で佳作をいただいたことによって、自分たちもやってみよう（低学年には負けない）と意欲にあふれていた。総合的な学習の学級テーマを幕別糠内（地域）での特産物のナガイモ「和稔じょ」にした。

地域の方と農協の方からのおさそいによって、1学期から「和稔じょ」の春掘り、種つけに参加させてもらった。和稔じょの苗もいただき、学校の農園で栽培もした。農家への取材。和稔じょの生みの親の農協の職員の方々への取材。農協の方のはからいで各関係機関への取材もできた。人数が少ない（6年生2名、5年生4名）のと子ども達がとても意欲的に取材をするのでどこへ行ってもかわいがってもらった。子ども達もますます意欲的になってくる。



2008年 「マクウンベツ」新聞 北海道「優秀賞」 全国「佳作」

前年度担任した子がほとんどなので、1学期から計画的に壁新聞作りを目指していた。ちょうどこの年の6月に修学旅行があり、まとめとして壁新聞を作った。前の年より内容の濃いものを作りたいと子ども達はテーマから取材まで全てにおいて学級の話し合いで決定した。

（教師の出番はほとんどなし）内容はパークゴルフ。幕別町発祥のものにこだわった。国際パークゴルフ協会、お菓子屋さんで取材。実際にパークゴルフ体験をしてプレイヤーにもインタビュー。取材が楽しくて、取材の後にまとめるのもその日のうちにしてしまう子ども達。

5人で何でも相談して納得のいくまで話し合い決定していく子ども達。みんなで作ることの意義や大切さ。みんなで協力することの大切さ、みんなで作ってできたときの喜びの大きさなどを新聞を通じて感じる事ができた。



総合的な学習「地域を知ろう、地域に知らせよう」

①幕別のことで知りたいことを話し合う～テーマの決定～

②手順を話し合う。

*新聞の大きさは？

*題字は？

*記事は何個？割り付けは？レイアウトは？写真は？イラストは？

*取材は？どこに行く？誰に聞く？

*担当は？（高学年は編集長を決める。係分担・記事の担当者）

*締め切りは？

③取材

記事は足で書く。

自分の目で見ると 自分の耳で聞くと 自分の口で話すと 自分の手で書くと
--

五感を大いに働かせる。

④記事を書こう

* 正確さ・わかりやすさ・ポイントを押さえて簡潔な文章・誰が読んでもわかるように・公平な立場で・結論は明確に・見出しの工夫

* 5W1Hを大切に

- ・記事の大まかな内容を決める
- ・写真，イラスト，図表を決める
- ・字数を確認して記事の下書きを書く
- ・メンバーに発表
- ・新聞と同じ形式のもの到下書き
- ・見出しの決定

⑤新聞用紙到下書きする

⑥文字や記事の内容に間違いはないかもう一度確認

⑦新聞用紙に清書する

⑧みんなで読み合う

⑨発行・・・学校の廊下に掲示・コンクール・地域のお祭りに掲示など

取材を通して、「知らないことは聞いてみよう」という意識が高まった。知らないことは恥ずかしいことじゃない。知らないから知るために聞くんだ。調べるんだ。ということを知ることができ、授業中も失敗をおそれることが少なくなった。また、全員で一つの話を話し合い決定していくことをくり返し行うことで、協調性が高まり、学校生活の中で自然と助け合う場面が増えた。新聞づくりを通じて、子ども達の中の絆が深まった。

(3)友だちを知る・自分を知る～新たな発見「中学年」～

2009年度 「まくべつ」新聞 北海道「優秀賞」 全国「優良賞」

①はじまりはいつも突然??

今年もまた、新聞作りに取り組んだ1年。

4月に3・4年生の担任になり、学級は全員で4人（1人は転入生）。今年も新聞はお休みだな～と思っていたところ、1人の子が「先生、私は、お姉ちゃんより上手に新聞作りたいです」と担任になってすぐに言った。その子と同じ3年生のもう一人の子も「○○するなら、おれもしたい・・・」4年生に相談すると、「いいよ」と即答と「・・・」の2つの声がかえってきた。こんな感じで、私の新聞作りは子どもから「作りたいたい」と声が出たときなのだ。なぜか4年間続いている。

そして、今年の幕別調査探検が始まった。



②調査探検出発!!

「何をテーマにしようか？」

「幕別に住んでいるけれど、幕別のことどんなこと知ってるの？」

「え～??よくわからないな～？」

「じゃあ、調べよう」

「どうやって調べる？」

「先生達に聞こうか？」

「先生達で幕別出身のいないよ」

「じゃあ、歩いてる人とかに聞いてみようか？」

「それいい!そうしよう!」

そして計画を立てて調査に出発!まずはリハーサルを兼ねて、糠内で調査の開始。

次に幕別本町へ・・・。

調査内容 幕別で有名なものを調べる
幕別で有名な人を調べる

調査方法 聞き込みアンケート (いろいろな人に聞く)

調査場所 糠内・幕別本町

調査結果のまとめかた 調べた結果をまとめ 有名なものや人を取材する。
調査結果と取材内容を壁新聞にする。

③調査結果をまとめよう

調査した結果を4人で持ち寄り、結果をまとめる。

調査結果をもとに取材方法を考える。

和稔じょ・・・農家さん・農協へ取材。 和稔じょを学校で育てる。

パークゴルフ・・・国際パークゴルフ協会へ取材。

福島千里選手・・・直接メールでやりとりをする。

④取材

子ども達の大好きな活動の一つ。取材。人と話すことが好きになり、言葉を使つてのコミュニケーションが楽しくなる活動。また聞いたことを書き留めておかななくてはならないので、だんだんポイントをつかんだメモの取り方ができるようになる。

また、今回は福島千里選手とメールでやりとりをすることができた。実際に子ども達がメールを送り、メールをもらう体験をすることもできた。

⑤レイアウト・係分担・下書き・清書

新聞作りは仲間と一緒にするので、どんな些細なことでも相談することが大切。

「私は〇〇と思うんだけど、みんなはどう思う？」というように自分の考えをみんなに伝えてからみんなの考えを聞く方法をとっている。常に相談、常に一緒に考えることを大切にしている。話し合いはリーダーが中心になって行い、仕事も分担した・レイアウト担当・見出しのレタリング担当・下書き担当・挿絵担当など

⑥新聞作りはドラマがいっぱい～ピンチはチャンス!～

やる気もいっぱい、元気もいっぱい、自己アピールもいっぱい。何でもおもしろそうなことには飛びつく中学年。日頃穏やかな学級。しかし、新聞作りの話し合いの中でついに本音が飛び交うように！子ども達にとってはピンチ！（後に聞いたらもうダメだ～と思ったらしい）。教師にとっては本音が出たのでチャンス！このチャンスを待っていたのだ！

お互い譲り合うことも大切。しかし、時には自分の考えを友だちにぶつけることも大切。自分を知り。友だちのこともより知る。新聞作りの話し合いをくり返し行うことで、自己を振り返り、友だちのことを思いやるきっかけとなった。自分の考えを伝えて、相手の意見も聞き、一緒に考えてよりよいものを作り上げて行くことをちょっとだけ学ぶことができた。

⑦新聞作りは仲間づくり

常に相談することによって、友だちの考えを知ることができる。また友だちの考えを受けて自分も考えたことを伝えて、またさらに一緒に考えることができる。自分も知り（知ってもらい）友だちのことも知る。また一緒に一つのものを作成することによって連帯感も生まれる。つまり、仲間を感じるができる。そして出来上がったときの満足感。「できた」喜びを実感。自信が湧いてくる。友だちと協力することのステキさを実感することができた。。

5:フムフム新聞をつくりたい

小学生新聞グランプリ 3年生「フムフム大賞」

2009年度、最初に取り組んだ新聞。意欲満々の3年生2人は一緒にすると。4年生は個人で取り組んだ。

3年生は「ながいも」をテーマに取材。聞くことが楽しくて。知りたいことがいっぱい。書くことも楽しい。何でも楽しくやっていた。授業中に行うことはできなかったのでも休み時間や放課後、課題が早く終わったときなどを利用して行った。2人でやりたいことがうまくいかなくなると「ここをこうしたいんだけど、いいやりかたある？やりかた教えて」と聞いてきた。やりたいこと、新聞で伝えたいことが明確だった。どんな目的で新聞を作るのかがはっきりしていた。目的意識をもっていたので受賞につながったのかもしれない。受賞をしたことで、もっと作ってみたい、もっとみんなに読んでほしい気持ちが高まった3年生だ。

その後、社会科のまとめを新聞で書いたり、総合のまとめで新聞を作成したりと幅も広がってきた。



6:地域に支えられて

新聞作りを続けてこられたのは、地域の方々・保護者の方々の協力が大きい。

取材も皆さん快く引き受けてくださり、体験活動もさせてもらうことができた。また、子ども達の学習の成果を心から喜んでくださり、よく声をかけてもらった。子ども達は地域の方々に励まされて自信をもつこともできた。地域の方々に支えられている子ども達、私たち教職員。地域の方々に感謝している。そんなあたたかい地域にいる子ども達がこれからものびのびと成長していくことを願っている。

7:その後

小学生で新聞づくりに取り組んだ子ども達のその後は？よく聞かれるのだが進学して新聞作りをしていないのが現状である。新聞づくりを経験した子ども達は「文章の書き方がわかる」「相手に伝わるように意見発表が書けた」「レタリングがとても上手だって先生にほめられたよ。新聞つくったときやっていたからだよ」など話しを聞く。新聞づくりが続いていないことは残念だが、他の面で作ったことが少し生かされているようだ。今でもときどき自分の作った作品を見るとという子もいてとても嬉しい。作った作品を励みに、自信を持って生活してほしいと思う。

8:おわりに

新聞づくりを通じて地域に学校の活動のこと、子ども達の活動のことを知ってもらうきっかけになった。子ども達も以前より新聞を見ている。「新聞に書いてあったさ」と書いてあった内容を教えてくれる。小学生新聞を読んでいる子。気になるところを切ってくる子。子ども達の中で自主的に新聞に親しむ姿がみられるようになった。自ら進んで手に取るようになってきている。

*地域の人が新聞を通じて、話題をしている。

*家族も喜んで新聞をみんなで見て会話する。

*人と人をつなげる。これも新聞の効果だと私は感じる。

子ども達が作った新聞を通じて、地域の方々と子ども達、そして学校が結びついてくると実感している。